

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：34415

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H04447

研究課題名(和文)「アジア・ジェンダー史」の構築と「歴史総合」教材の開発

研究課題名(英文) Construction of "Asia and Gender History" and Development of "Modern and Contemporary History" Teaching Materials

研究代表者

三成 美保 (MITSUNARI, Miho)

追手門学院大学・法学部・教授

研究者番号：60202347

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：高校「歴史総合」用教材として、『<ひと>から問うジェンダーの世界史』全3巻を順次刊行した。第1巻『「ひと」とはだれか？ 身体・セクシュアリティ・暴力』(全5章105項目)、第2巻『「社会」はどう作られるか？ 家族・制度・文化』(全4章89項目)、第3巻『「世界」をどう問うか？ 地域・紛争・科学』(全5章76項目)である。世界史の中にアジア史を積極的に位置づけることを目指すとともに、多くの項目にQRコードを設定し、史資料や画像、参考文献等を比較ジェンダー史研究会HPで参照できるようにした。また、国際シンポジウム(アジアジェンダー研究・ウェビナーシリーズ、全4回)を開催し、HP上で動画配信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果の社会的意義は、2022年度から必修化された高校「歴史総合」が「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」を柱とし、アジアを重視していることを踏まえ、それにふさわしい教材を開発提供したことにある。SDGsによって「ジェンダー平等」がグローバル課題として国際社会で共有されるようになったことを踏まえ、科学、環境の問題にも射程を広げつつ、LGBTQなどの人権保障や男性性、生殖などの問題も取り上げた点も新しい。学術的意義は、全4回の国際シンポジウム(アジアジェンダー研究・ウェビナーシリーズ)の開催・動画配信を行い、「アジア・ジェンダー史」の方向性を示した点にある。

研究成果の概要(英文)：We published a three-volume work, "A History of Gender in the World: Questions from the Perspective of 'Person'" as teaching materials for high school "Integrated History" courses. Volume 1, "Who is 'Person'? -Body, Sexuality and Violence" (5 chapters, 105 items), and Volume 2, "How is 'Society' Created? -Family, Institutions and Culture" (4 chapters, 89 items), and Volume 3, "How Do We Question the 'World'? -Regions, Conflicts and Science" (5 chapters and 76 items). In these books, we have actively placed Asian history within the context of world history. We also set up QR codes for many of the items so that historical materials, images, and references can be referenced on the website of the Society for Comparative Gender History. We also held four international symposiums (Asian Gender Studies Webinar Series), which were video-streamed on our website.

研究分野：法学

キーワード：ジェンダー アジア 歴史教育 世界史 教材開発

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、歴史研究・歴史教育に「ジェンダー視点」を不可欠のものとする取り組み（ジェンダー主流化）の一つである。本共同研究の主体となる比較ジェンダー史研究会は、2012年以降「ジェンダーの世界史」の構築に取り組んできた。その成果として、高校歴史教育の参考となるジェンダー史書籍の編集・刊行を目指し、『歴史を読み替える ジェンダーから見た世界史』（2014年）及び『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』（2015年）を刊行した。両書の編集方針は、高校「世界史B」あるいは「日本史B」に照準をあわせ、高校教科書の章立てに即したジェンダー史記事をまとめることであった。両書籍は、教育参考資料として、高校教育現場にもたいへん好意的に受け止められた。

しかしその後、高校歴史教育、国際的動向、ジェンダー史研究にはいくつかの大きな変化が生じた。このような変化を踏まえ、国内外のジェンダー事情と結びついた新しい課題に取り組む必要性が高まった。以下の3点が、本研究開始に至った重要な背景である。

(1) 高校学習指導要領が改訂され、新学習指導要領（2018年）に基づき、2022年度から日本と世界の近現代史を総合した新科目「歴史総合」が必修化されたこと。

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が求められており、「歴史総合」では、「近現代の歴史の大きな変化を『近代化』、『国際秩序の変化や大衆化』、『グローバル化』と表し、現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成されてきたのか、それは生徒自身が向き合う現代的な諸課題とどのように関わっているのかなどについて生徒が課題意識をもって考察できるよう」（新学習指導要領 2018：124）にすることが目標とされている。アジア諸国と日本とのつながりをジェンダー視点から深く追究することは、「歴史的思考力」を鍛えるという「歴史総合」の学習目標に合致する。その意味でも、「アジア・ジェンダー史」に関する教材を開発し、議論や思考の素材として提供することはきわめて有意義である。その結果、上述の『読み替える』全2巻ではカバーできない新しいテーマに関する研究や記述に取り組む必要が急務となった。すなわち、従来の歴史教育では必ずしも重視されてこなかったアジア地域やイスラム文化圏を比較の射程に取り込むとともに、21世紀国際社会の重要な課題であるSDGsや科学、環境の問題にも射程を広げるとの課題が切実なものとなったのである。また、LGBTQなどの人権保障や男性性、生殖などの問題についても、高校教育や一般市民教養としてわかりやすく研究成果を提供する必要性が高まった。

(2) SDGs（2016～2030年）の目標設定に伴い、「ジェンダー平等」がグローバル課題として国際社会で共有されるようになったこと。

「ジェンダー平等」は、SDGs第5目標であるとともにSDGs全体を貫く課題でもある。アジアでは、経済先進国であることとGGGI（グローバル・ジェンダー・ギャップ指数）で測られるジェンダー平等度は必ずしも一致せず、ジェンダー平等度と女性差別（性暴力・性売買・貧困）の実態もまた一致しない。経済格差を背景にケア・家事労働者としての女性のアジア内移動（香港や台湾への東南アジア女性の出稼ぎ労働等）も顕著になっている。21世紀アジア諸国のジェンダー平等をめぐる諸問題は、各地域の歴史や文化的特性が強く反映している。このような歴史をジェンダーの視点から明らかにすることは「グローバル・ヒストリー」教育・研究に必須である。

(3) 21世紀日本では、ジェンダー研究は各分野で自立したが、各研究分野の「ジェンダー主流化」（ジェンダー視点の必須化）はほとんど進んでいないこと。

「性差（ジェンダー）の日本史」展示（国立歴史民俗博物館 2020年）が大きな反響を呼んだが、これが日本初の全国的なジェンダー史展示であったことは、日本における歴史教育・研究におけるジェンダー視点の欠如がいまなお深刻であることを端的に示した。たしかに、日本におけるジェンダー史研究は1990年代から活発になり、2004年にはジェンダー史学会も成立して研究が本格化しつつある。ジェンダー史は、学問分野としては自立したと言える。しかし、こうしたジェンダー史の成果は必ずしも高校教育や大学共通教育に反映されているとは言えない。その主な理由は、教育に利用可能な参考書籍や、アクセスしやすい史資料・データが乏しいことにある。ジェンダー史及びジェンダー研究の第一線の研究者に協力を仰ぎ、教材開発を進めて、その成果を安価に見やすい形で提供する環境は日本でも整いつつあり、その必要性も高い。共同研究成果の発信を通じて、歴史学におけるジェンダー主流化を進める基礎作りに貢献しうる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、「アジア・ジェンダー史」の構築と「歴史総合」教材の開発の2点にある。

(1) 第一の目的は、「アジアにおける多様なジェンダー秩序の歴史的構築過程」に着目して、「アジア・ジェンダー史」の構築をはかることであった。

本研究では、「アジア・ジェンダー史」を「アジア で / を / から 問うジェンダー史」と定義した。具体的には、「アジア で 問うジェンダー史」に関する史資料の収集・整理、高校「歴史総合」のための「アジア を 問うジェンダー史」教材の作成、アジア諸国の研究者と協力しながら「アジア から 問うジェンダー史」研究の発展に取り組む。アジア社会・文化の歴史的特性を深層にまで踏み込んで明らかにするには、集団の存続や差異化を決定するジェ

ンダー要因(女性・家族・性・生殖など)を自覚的に問い直すジェンダー視点がきわめて有効である。すなわち、「アジア」で/を/から問う「グローバル・ヒストリー」の書き換えに向けた提案、「アジア」及び「(周辺部も含めた)欧米」という地域の特性・歴史的構築性・多様性の問い直し、「ヨーロッパ中心史観」の克服を具体的課題として設定した。それは、「アジアにおける多様なジェンダー秩序の歴史的構築過程」を問う試みに他ならない。

(2)以上のような「アジア・ジェンダー史」の構築という問題関心に基づき、第二の目的である「歴史総合」教材の開発にあたって、以下を目指した。

まず、3つの「基本的課題」として、ジェンダー諸研究間のコラボを通じた基本概念の検証・構築、アジア国際共同研究にもとづくジェンダー研究の組織化と国際シンポジウムの企画・開催、高校歴史教育との連携を設定した。

第二に、5つの「視点」を設定して、書籍のテーマ設定に反映した。男性を無自覚に「(歴史的)主体」として設定することを避け、「覇権」から排除された人々の主体性を回復する。家族や性・生殖など伝統的歴史学では周縁化されてきた「私」的諸問題を歴史分析の基礎として位置づけ直す。「アジア」を自明視せず、「アジア」そのもの及びアジア内諸地域・アジアと対比した欧米の「歴史構築性」を問う。「アジア」女性の非均質性・多様性に着目する。文献資料のジェンダーバイアスを考慮し、多様な史資料を活用する。

第三に、5つの「論点」(研究対象の組み替えを目指してとくに重視するテーマ)として、「国家・共同体・家」の有機的なつながりの重視、「再生産」と「無償労働」への注目、公私概念の再検討・公私関係の多様性の分析に加えて、「戦争・暴力・性」を一体的に考察し、「生活」を重視して「文化」の男性性の問い直し、を設定した。これらは、3巻本の章立てに反映した。

### 3. 研究の方法

研究の方法としては、共同研究の成果を上げるために以下の2点を工夫した。

#### (1)共同研究の円滑な遂行

研究分担者の個別研究をベースに、共同研究として公開シンポジウムを開催し、研究成果を共有・発展させる。随時、オンライン会議を行って意見交換をするほか、比較ジェンダー史研究会ホームページ(<https://ch-gender.jp/wp/>)を拡充(動画の配信を含む)する。編集の中心となる9名のメンバー間の緊密な情報共有をはかるためにMLを作成し、WEB上のファイル共有をはかる。

#### (2)他の研究組織及び外国人研究者との協力・コラボ

他のジェンダー系研究会と積極的に協力して合同研究会を開催し、論点の拡大・進化を目指す。海外から研究者を招き、オンラインで国際シンポジウムを開催し、比較ジェンダー史研究会HPで公開して、広く国際社会に成果を公表する。「歴史総合」教材開発については、高校教員との対話や共同作業を通じて、ジェンダー視点から歴史教育の発展をはかるためのテキスト・資料を作成・提供する。

### 4. 研究成果

本研究の主な成果は、(1)社会的意義として『<ひと>から問う世界史』全3巻の企画・編集・刊行したこと、(2)学術的意義として国際シンポジウム(アジアジェンダー研究・ウェビナーシリーズ)の開催・動画配信したことにある。

#### (1)『<ひと>から問う世界史』全3巻の企画・編集・刊行

本企画の特徴は、ジェンダー研究の成果を明確にするために、「ひと・家族・国家」という構成をとること、項目とコラムを適宜取り混ぜ、最先端の研究成果をわかりやすく読者に提供すること、アジア諸地域に関する記述を大幅に増やし、世界史の中にアジア史を位置づけることを目指したことである。「歴史総合」の必修化に照らして、広く学校教育や大学教養教育・市民教育に資するものとなるよう構成を考えた。各巻の編者はすべて本科学研究分担者である。依頼した執筆者は、本科学研究分担者や研究協力者を中心に、3巻全体で140名以上に及び。

本書は全3巻構成をとる。身体や性をもつ多様な「ひと」から出発し(第1巻)、「ひと」が取り結ぶさまざまな集団(家族・共同体・国家)を問い(第2巻)、地域・集団間の関わりの中で「ひと」とモノや学知がいかに動くかをジェンダー視点から論じた(第3巻)。各巻4~5章構成(全266~284ページ)であり、項目(見開き2~4ページ)、コラム(1ページ)、QRコード(比較ジェンダー史研究会ウェブサイトとの連動)、「問い」の設定、『歴史を読み替える』(世界史・日本史)への参照を特徴とする。特に、多くの項目にQRコードを設定し、書籍に反映できなかった史資料や画像、参考文献、補遺記事を直接ウェブ記事として参照できるようにした。章構成にあたっては、アジア・アフリカ・イスラーム圏などを重視し、欧米中心にならないように配慮した。テーマごとに最もふさわしい事例や日本的「世界史」の常識を覆すような事例を選んだため、時代・地域に必ずしも統一性はない。しかし、できるだけ比較ジェンダー史として有益な章・節・項・コラムになるよう工夫をこらした。比較ジェンダー史研究会WEBサイトとの連携もはかっている。

第1巻『「ひと」とはだれか? 身体・セクシュアリティ・暴力』は全5章105項目、「身体と『ひと』」(1章)、「生殖と生命」(2章)、「セクシュアリティと性愛」(3章)、「身体管理と身体表現」(4章)、「性暴力と性売買」(5章)である。

第1巻『「ひと」とはだれか?』は、本企画全体の「問い」の方向性を明確に示した。すなわち、国家や社会からではなく、「ひと」から問うというスタンスを示したのである。そもそも「ひと」は、年齢・身体的特徴・性自認・性的指向など多様な属性をもつ。しかし、しばしば国家や共同体により男女いずれかの性別を割り当てられ、それに応じた役割やふるまいを期待される。そのような役割期待は、特定の「ひと」の暴力を正当化し、別の「ひと」の尊厳を著しく損なう。男女二分法は多様な性の在り方を否定し、社会規範に「ひと」を飼い馴らす手立てとして機能する。このような「ひと」の定義の根幹にかかわるのがジェンダーであるとの認識に立ち、身体、生殖、セクシュアリティ、身体表現、性暴力を取り上げた。

第2巻『「社会」はどう作られるか? 家族・制度・文化』は全4章89項目、「家・家族・親族」(1章)、「社会的ヒエラルキーとジェンダー」(2章)、「権力・政治体制とジェンダー」(3章)、「労働・教育・文化」(4章)である。

第2巻『「社会」はどう作られるか?』は、「ひと」が相互に紡ぎあう親密関係や生活共同体を問う。家族や親族などは、近代歴史学では「私的領域」として不可視化されてきた。家族の捉え方は社会によって異なることはよく知られるが、本書では家族の在り方が社会の在り方を規定するとの認識から「家族から社会そして国家へ」というベクトルで問いを立てた。公私分離や男女隔離などの区別が社会的ヒエラルキーをどう構築するのかを問い、王権の男性性を問い直し、文化や芸術において女性が主体や客体になった歴史的文脈を明らかにする。これらの問いのいずれもが日常生活の中のジェンダーバイアスを可視化し、政治や体制の本質を暴き、矛盾を喝破する。こうした立場から、家・家族、社会的ヒエラルキー、政治体制、労働・教育・文化を取り上げた。

第3巻『「世界」をどう問うか? 地域・紛争・科学』は全5章76項目である。「創られる『世界』と『地域』」(1章)、「植民地支配とグローバル化」(2章)、「戦争と暴力に抵抗する」(3章)、「環境・災害・疫病」(4章)、「科学とジェンダー」(5章)である。

第3巻『「世界」をどう問うか?』は、ジェンダー視点からグローバルな問題を問う。第1巻、第2巻のテーマが近年のジェンダー史の重要トピックであるのに対して、第3巻で取り上げるテーマはいずれも非常に新しい。「世界」も「地域」も作られるのであって、歴史的に変化する。そのような「世界」の再定義にはしばしば戦争や植民地支配が利用されるが、わたしたちが共有すべきは抵抗の歴史である。戦争も開発も地球環境を破壊する。男性中心の科学もまたしばしばそれに加担してきた。21世紀の世界的危機の中では、ジェンダー平等社会の実現こそが持続可能な未来を拓く。この信念に立ち、地域、世界の再創造、戦争と暴力への抵抗、地球環境、科学を取り上げ、ジェンダー視点からそれらを読み替えるべきことを論じた。

3巻本の合評会を2024年3月に公開シンポジウム(ハイブリッド形式)で実施し、多くの参加を得た。書評報告・コメントは、日本史、西洋史、医療史、社会学、イスラーム研究、高校教員に依頼し、報告・質疑の成果(動画を含む)は比較ジェンダー史研究会ウェブサイトで公開した。

(2)国際シンポジウム(アジアジェンダー研究・ウェビナーシリーズ)の開催・動画配信

コロナ禍で対面シンポジウムが不可能になったため、本科研独自の企画として、オンラインの国際シンポジウム「アジアジェンダー研究・ウェビナーシリーズ」(全4回実施)を開始した。日英等の同時通訳を入れ、活発な議論ができるよう配慮した。第1回「家父長制について 南アジアのジェンダー研究から」(2022年1月28日)、第2回「近代国家形成と家名 タイと日本の比較から」(2022年3月8日)、第3回「周縁化された女性たち 東アジアの世界から」(2022年8月29日)、第4回「消えた女王 東アジア社会の父系化をめぐって」(2023年3月11日)を開催した。シンポジウムの招待講演は本科研の専用WEBサイト(比較ジェンダー史研究会)に動画をアップし、コメント等もHPに掲載して、国際的発信を目指した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 22件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 三成美保	4. 巻 1188
2. 論文標題 歴史教育という実践—ジェンダー視点から問う	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 76 - 99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三成美保	4. 巻 1
2. 論文標題 人権としてのセクシュアリティ—トランスジェンダーの法的性別変更を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 追手門法学	6. 最初と最後の頁 82-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三成美保	4. 巻 10
2. 論文標題 LGBT理解増進法の成立と今後の課題—トランスジェンダーの尊厳保障を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ジェンダー法研究	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河上麻由子	4. 巻 54
2. 論文標題 日本古代文化と女性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 萬葉集研究	6. 最初と最後の頁 299-347
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟屋利江	4. 巻 51-15
2. 論文標題 南アジア歴史研究における感情をめぐる予備的サーヴェイ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 67 - 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井野瀬久美恵・小川幸司・成田龍一	4. 巻 1188
2. 論文標題 討議 転換期の歴史教育/歴史教育の転換	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 8-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井野瀬久美恵	4. 巻 29巻1号
2. 論文標題 特集: AIと倫理問題-インタビュー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 21 - 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井野瀬久美恵	4. 巻 1044
2. 論文標題 特集『アカデミズムとジェンダーについて語ろう!』ジェンダーを語る場からアカデミズムを社会に開く/拓く	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 31 - 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三成美保	4. 巻 18
2. 論文標題 パンデミック対策とジェンダー・バイアス - 新型コロナウイルス感染症への対策が浮かび上がったもの - 企画趣旨	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ジェンダーと法	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三成美保	4. 巻 753
2. 論文標題 マイノリティの包括的権利保障に向けた法的アプローチ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 24-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三成美保	4. 巻 24
2. 論文標題 マスキュリニティの歴史と現在～男性の《困難》をめぐって～ (総論)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本ジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小浜正子	4. 巻 746
2. 論文標題 社会科教育のジェンダー主流化を	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会科教育	6. 最初と最後の頁 120-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小浜正子	4. 巻 26巻7号
2. 論文標題 学校教育とジェンダー 歴史的視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.26.7_56	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ONO Hitomi	4. 巻 56
2. 論文標題 The Concept of Family in the Thought of Ibn Ashur: Islamic Traditions and Modern Patriarchy (Special Issue: Gender and Tradition in Contemporary Islam)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Orient: Journal of the Society for Near Eastern Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 69 - 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野仁美	4. 巻 5
2. 論文標題 2020年度 第15回 女性史学賞 受賞記念:イスラーム法のなかに<子ども>を探す試み 『イスラーム法の子も観 -ジェンダーの視点でみる子育てと家族』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア・ジェンダー文化学研究	6. 最初と最後の頁 85 - 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 OSA Shizue	4. 巻 2021年5月号
2. 論文標題 La question des "mariages internationaux":Theories de la race et racialisation dans le Japon modern	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Politika (EHESS) <a href="https://www.politika.io/fr/article/question-mariages-internationaux-theories-race-racialisation-japon-moderne">https://www.politika.io/fr/article/question-mariages-internationaux-theories-race-racialisation-japon-moderne</a>	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 井野瀬久美恵	4. 巻 1174
2. 論文標題 翻訳+訳者解題「イヴ・ローゼンハフト「多方向的記憶を超えて」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 57-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井野瀬久美恵	4. 巻 1012
2. 論文標題 コルストン像はなぜ引き倒されたのか 都市の記憶と銅像の未来	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井野瀬久美恵	4. 巻 26巻9号
2. 論文標題 日本学会会議改革と女性会員	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 92-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.26.9_92	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井野瀬久美恵	4. 巻 26巻12号
2. 論文標題 コロナ禍のなか、過去をたぐり寄せる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.26.12_32	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村 鮎子	4. 巻 1117
2. 論文標題 明清における妾婢をめぐる士大夫の心性 亡妾哀悼文を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村 鮎子	4. 巻 207
2. 論文標題 漢文の教科書に女性詩人が登場しないのはなぜか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 漢文教室	6. 最初と最後の頁 17-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 MOMOKI Shiro	4. 巻 2 - B1
2. 論文標題 Back to Nam Dinh: Re-Questioning Village Society and Family/Clan Structures During the Late Early Modern Period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Science, Thang Long University	6. 最初と最後の頁 70-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久留島典子	4. 巻 28
2. 論文標題 文書戦略と領有権争い	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 島根県古代文化センター研究論集	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟屋利江	4. 巻 67
2. 論文標題 感情史の可能性と課題 南アジア史研究者からのコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代史研究	6. 最初と最後の頁 53 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木則子	4. 巻 1011
2. 論文標題 安政五年コレラ流行をめぐる<疫病経験> - 駿州大宮町栴屋弥兵衛の日記から -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 12-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久留島典子	4. 巻 32
2. 論文標題 益田家文書における文書の集積と分散	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 49-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野 仁美	4. 巻 82
2. 論文標題 イスラーム家族法とフェミニズム : チュニアの相続規定をめぐる多様な立場 (立教大学史学会大会特集報告 : 人権と向き合う現代世界 : 権力と人権をめぐる現代人類史・誌的省察のために)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 79 ~ 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/00021486	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木則子	4. 巻 36
2. 論文標題 安政5年コレラ流行とおどけ長唄『しに行 三日轉愛哀死々』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間文化研究科年報	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河上麻由子	4. 巻 24
2. 論文標題 東アジアの轉輪聖王 (原文は一部ハングル語を使用)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 木簡と文字研究 (原文は一部ハングル語を使用)	6. 最初と最後の頁 111 127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河上麻由子	4. 巻 23
2. 論文標題 「書評 廣瀬憲雄著『古代日本と東部ユーラシアの国際関係』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 唐代史研究	6. 最初と最後の頁 127-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桃木至朗	4. 巻 700
2. 論文標題 日本史と統合された東南アジア史・海域アジア史・世界史教育を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 82-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桃木至朗	4. 巻 23
2. 論文標題 東・東南アジアの時代区分論に二〇二〇年をどう位置づけるか 「長い近世」論を中心として -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 七隈史学	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村鮎子	4. 巻 48
2. 論文標題 明清亡妻哀悼散文考 亡妻墓誌銘から亡妻行状へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 叙説	6. 最初と最後の頁 64788
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎明子	4. 巻 6
2. 論文標題 書評 Queering The Subversive Stitch: Men and the Culture of Needlework	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・ジェンダー文化学研究	6. 最初と最後の頁 75-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎明子	4. 巻 Jan-53
2. 論文標題 ぬいぐるみとジェンダー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 53
2. 論文標題 労働省婦人少年局と紙芝居	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子どもの文化	6. 最初と最後の頁 34-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 56
2. 論文標題 Where and who have been Nisei soldiers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際文化学研究	6. 最初と最後の頁 71-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 1001
2. 論文標題 女系・女帝の可能性と<近代>	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 19-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件(うち招待講演 23件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 五代十国の政治と仏教
3. 学会等名 東洋史研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 粟屋利江
2. 発表標題 パネル「英領インドにおける女性雑誌文化と女子教育」へのコメント
3. 学会等名 日本南アジア学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 MITSUNARI Miho
2. 発表標題 Wartime Sexual Violence and War Responsibility - The "Comfort Women Issue" in Japan
3. 学会等名 Symposium: From Dictatorship To Democracy, the Memorial and Educational Site House of the Wannsee Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三成美保
2. 発表標題 戦後日本における女性の社会参加と法 ジェンダー平等停滞の背景を考える
3. 学会等名 日中社会学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三成美保
2. 発表標題 近現代日本における法的家族像とその変遷
3. 学会等名 ジェンダー法学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小浜正子
2. 発表標題 一人っ子政策と中国のジェンダー秩序
3. 学会等名 東洋史研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 姫岡とし子
2. 発表標題 桑原ヒサ子『ナチス機関誌「女性展望」を読む』に関して
3. 学会等名 ドイツ現代史学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野仁美
2. 発表標題 イスラーム家族法とフェミニズム—チュニジアの相続規定をめぐる多様な立場
3. 学会等名 2021年度立教大学史学会大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 「女性たちの『生』を可視化する ジェンダーからみるイギリス帝国」コメント
3. 学会等名 ジェンダー史学会年次大会部会E（招待講演）
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 「歴史教育シンポジウム「歴史総合」をめぐって(5) - 「歴史総合」の教科書をどう作ったか - 」コメント
3. 学会等名 日本学術会議史学委員会・同中高大歴史教育に関する分科会、日本歴史学協会/高大連携歴史教育研究会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上薫
2. 発表標題 「親になって一人前」とのつきあい方ー不妊治療が映し出す夫婦のかたち
3. 学会等名 現代中東地域研究推進事業全拠点主催シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井野瀬久美恵
2. 発表標題 「歴史総合」の史学史 「問う私」を問う
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井野瀬久美恵
2. 発表標題 人文学系学会における日本文化人類学会の位置 ギースの紹介と他学会のとりくみ
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野村 鮎子
2. 発表標題 中国古典文学は女性同性愛をどう描いたか？
3. 学会等名 立命館大学孔子学院
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 5 - 6世紀の東アジア仏教と大通寺
3. 学会等名 “ 更以強國 ” 1,500周年國際學術會議（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 則天武后と多元性
3. 学会等名 東方学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 平城京から長安へ 天平時代の日中交流
3. 学会等名 奈良県 x 陝西省 交流の軌跡（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 白鳳-天平文化の『唐風』 国風文化の前史として
3. 学会等名 第33回濱田青陵賞受賞シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久留島典子
2. 発表標題 女捕について
3. 学会等名 日本常民文化研究所研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 AWAYA Toshie
2. 発表標題 A Critical Survey of Indian Feminism and Dalit Movements: In the Shadow of 'Populism'
3. 学会等名 The 13th INDAS-South Asia International Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木則子
2. 発表標題 江戸の流行り病と人々の暮らし - 幕末の疱瘡と種痘導入をめぐって -
3. 学会等名 日本医史学会総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木則子
2. 発表標題 安政六年コレラ流行と摺物
3. 学会等名 国際浮世絵学会秋季大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木則子
2. 発表標題 江戸時代の疫病史料にみる女性
3. 学会等名 総合女性史学会2021年度大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 MOMOKI Shiro
2. 発表標題 How Did the State of Dai Viet-Annan during its 'Charter Era' Positioned Itself in the Sinic World?
3. 学会等名 International Confrence, The Research of the History of Vietnam from the Perspective of Global History（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桃木至朗
2. 発表標題 モノから見た東南アジア史～東アジア/東北アジアとの関わりを中心として～
3. 学会等名 シンポジウム「モノから読む東ユーラシア世界の力動性」韓国・東国大学校（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久留島典子
2. 発表標題 益田家文書における文書の集積と分散
3. 学会等名 第285回東京大学史料編纂所研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野仁美
2. 発表標題 コメント「イスラーム法との比較」
3. 学会等名 国際シンポジウム：アジアジェンダー研究・ウェビナーシリーズ第1回：家父長制について－南アジアのジェンダー研究から（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小野仁美
2. 発表標題 コメント
3. 学会等名 イスラーム地域研究・若手研究者の会1月例会：高橋稜央「後ウマイヤ朝期アンダルスにおける混合家族と法学議論」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野仁美
2. 発表標題 第15回 女性史学賞 受賞記念講演 「イスラーム法の中に<子ども>を探す試み」
3. 学会等名 2020年度 第15回 女性史学賞授賞式（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木則子
2. 発表標題 18世紀後半の産科医療と胎内・胎児・妊産婦認識の変容
3. 学会等名 シンポジウム「身体イメージの創造－感染症時代に考える伝承・医療・アート」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 白鳳～天平文化の『唐風』 国風文化の前史として
3. 学会等名 第33回 濱田青陵賞受賞シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桃木至朗
2. 発表標題 中近世ベトナムにおける「家」と「族」
3. 学会等名 比較家族史学会第67回秋季研究大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計34件

1. 著者名 三成 美保、小浜 正子、鈴木 則子（編著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 278
3. 書名 「ひと」とはだれか？ ひと から問うジェンダーの世界史 第1巻	

1. 著者名 姫岡 とし子、久留島 典子、小野 仁美（編著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 284
3. 書名 「社会」はどう作られるか？ ひと から問うジェンダーの世界史 第2巻	

1. 著者名 井野瀬 久美恵、栗屋 利江、長 志珠絵（編著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 266
3. 書名 「世界」をどう問うか？ ひと から問うジェンダーの世界史 第3巻	

1. 著者名 ジェンダー事典編集委員会（編集）、松本悠子、伊藤公雄、小玉亮子、三成美保（編著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 800
3. 書名 ジェンダー事典	

1. 著者名 井野瀬久美恵（編著）、小浜正子、他（著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 256
3. 書名 『つなぐ世界史』3 近現代/SDGsの歴史的文脈を探る	

1. 著者名 長沢栄治、岩崎えり奈、岡戸真幸（編著）、村上薫・他（著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 労働の理念と現実	

1. 著者名 山口みどり、弓削尚子、後藤絵美、長志珠絵、石川照子（編）、三成美保・村上薫・河上麻由子・姫岡とし子・他（著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 論点ジェンダー史学	

1. 著者名 LGBT法連合会（編）、三成美保、他（著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 SOGIをめぐる法整備はいま LGBTQが直面する法的な現状と課題	

1. 著者名 大阪大学歴史教育研究会（編）、桃木士朗、河上麻由子、他（著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 366
3. 書名 市民のための世界史(改訂版)	



1. 著者名 姫岡とし子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 ジェンダー史10講	

1. 著者名 川分圭子・堀内真由美(編),井野瀬久美恵,他(著)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 380
3. 書名 カリブ海の旧イギリス領を知るための60章	

1. 著者名 荒川正晴、小川幸司、永原陽子、他編、(三成美保、粟屋利江、他)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 342
3. 書名 岩波講座『世界歴史』第1巻「世界史とは何か」	

1. 著者名 二宮周平、風間孝編(三成美保、他)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 390
3. 書名 家族の変容と法制度の再構築	

1. 著者名 小浜正子、板橋暁子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 402
3. 書名 東アジアの家族とセクシュアリティ	

1. 著者名 桃木至朗	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 402
3. 書名 市民のための歴史学	

1. 著者名 荒川正晴、小川幸司、永原陽子、他編（桃木至朗、他）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 岩波講座『世界歴史』第6巻「東南アジア世界と中華世界」	

1. 著者名 Akita Shigeru, Liu Hong, Momoki Shiro (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Singapore: Springer Nature Singapore Pte Ltd	5. 総ページ数 255
3. 書名 Changing Dynamics and Mechanisms of Maritime Asia in Comparative Perspectives	

1. 著者名 西尾哲夫、東長靖編（村上薫、他）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 中東・イスラーム世界への30の扉	

1. 著者名 長沢栄治、鳥山純子編（村上薫、他）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 252
3. 書名 フィールド経験からの語り	

1. 著者名 竹沢 泰子、ジャン＝フレデリック・ショブ編（長志珠絵、他）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 422
3. 書名 人種主義と反人種主義	

1. 著者名 苅部直、前田勉編（長志珠絵、他）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ペリかん社	5. 総ページ数 320
3. 書名 日本思想史の現在と未来	

1. 著者名 小野仁美、細谷幸子、堀井聡江、森田豊子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上智大学イスラーム研究センター	5. 総ページ数 103
3. 書名 中東イスラーム圏における社会的弱者の権利を考える	

1. 著者名 永瀬伸子、和泉ちえ、井野瀬 久美恵、他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本学術協力財団	5. 総ページ数 322
3. 書名 人文社会科学とジェンダー	

1. 著者名 鈴木靖民、高久健二、田中史生、浜田久美子編（河上麻由子、他）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 八木書店出版部	5. 総ページ数 488
3. 書名 古代日本対外交流史事典	

1. 著者名 二宮周平（三成美保・共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 480
3. 書名 現代家族法講座 第1巻 個人、国家と家族	

1. 著者名 日本学会議, 未来からの問い, 検討委員会 (三成美保・共著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本学会議	5. 総ページ数 408
3. 書名 未来からの問い - - 日本学会議100年を構想する	

1. 著者名 『日本歴史』編集委員会 (三成美保・共著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 256
3. 書名 恋する日本史	

1. 著者名 高田 京比子, 三成 美保, 長 志珠絵 (編著)、(河上麻由子、他)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 神戸大学出版会	5. 総ページ数 342
3. 書名 「母」を問う : 母の比較文化史	

1. 著者名 Ochiai Emiko and Patricia Uberoi (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Delhi: Sage	5. 総ページ数 1000
3. 書名 Asian Families and Intimacies, 4 vols.	

1. 著者名 小野仁美ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上智大学イスラーム地域研究センター	5. 総ページ数 471
3. 書名 『中東イスラーム圏における社会的弱者の権利を考える』SIAS Working Paper Series 33 (小野仁美「『子の利益(マスラハ)』とは何か イスラーム法と現代チュニジア法」445-470頁)	

1. 著者名 姫岡とし子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 111
3. 書名 『ローザルクセンブルク』	

1. 著者名 河上麻由子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩浪書店	5. 総ページ数 358
3. 書名 『シリーズ古代史をひらく 国風文化 貴族社会のなかの「唐」と「和」』(「唐滅亡後の東アジアの文化再編」)	

1. 著者名 桃木至朗	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 412
3. 書名 世界史叢書5 ものがつなく世界史	

1. 著者名 田中雅一・嶺崎寛子編、(村上薫・他)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 472
3. 書名 ジェンダー暴力の文化人類学：家族・国家・ディアスポラ社会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

比較ジェンダー史研究会 <a href="https://ch-gender.jp/wp/">https://ch-gender.jp/wp/</a>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	栗屋 利江  (AWAYA Toshie)  (00201905)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授    (12603)	
研究分担者	村上 薫  (MURAKAMI Kaoru)  (00466062)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター ジェンダー・社会開発研究グループ・研究グループ長代理   (82512)	
研究分担者	小浜 正子  (KOHAMA Masako)  (10304560)	日本大学・文理学部・教授   (32665)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 則子  (SUZUKI Noriko)  (20335475)	奈良女子大学・生活環境科学系・教授    (14602)	
研究分担者	小野 仁美  (ONO Hitomi)  (20812324)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・助教    (12601)	
研究分担者	長 志珠絵  (OSA Shizue)  (30271399)	神戸大学・国際文化学研究所・教授    (14501)	
研究分担者	山崎 明子  (YAMASAKI Akiko)  (30571070)	奈良女子大学・生活環境科学系・教授    (14602)	
研究分担者	桃木 至朗  (MOMOKI Shiro)  (40182183)	大阪大学・大学院人文学研究科（人文学 専攻、芸術学専攻、 日本学専攻）・招へい教授    (14401)	
研究分担者	河上 麻由子  (KAWAKAMI Mayuko)  (50647873)	大阪大学・大学院人文学研究科（人文学 専攻、芸術学専攻、 日本学専攻）・准教授    (14401)	
研究分担者	野村 鮎子  (NOMURA Ayuko)  (60288660)	奈良女子大学・人文科学系・教授    (14602)	
研究分担者	久留島 典子  (KURUSHIMA Noriko)  (70143534)	神奈川大学・国際日本学部・教授    (32702)	



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井野瀬 久美恵 (INOSE Kumie) (70203271)	甲南大学・文学部・教授  (34506)	
研究分担者	姫岡 とし子 (HIMEOKA Toshiko) (80206581)	奈良女子大学・アジア・ジェンダー文化学研究中心・協力研究員  (14602)	
研究分担者	永原 陽子 (NAGAHARA Yoko) (90172551)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員  (12603)	
研究分担者	落合 恵美子 (OCHIAI Emiko) (90194571)	京都大学・文学研究科・教授  (14301)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際シンポジウム「アジアジェンダー研究ウェビナーシリーズ」（オンライン）全4回	開催年 2021年～2023年
---	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関